

活 動 報 告

日 本 語 ・ 日 本 事 情

浮 田 三 郎

広島大学の東広島への統合移転が完成されようとしている。新キャンパスの装いも、数年前の自然のすすきの袖から人工的なアスファルトの仕事着に代わりつつある。そうなる次年度には、「日本語・日本事情」のカリキュラムや時間割に関連して、教室問題など新たな問題も絡んでくる。

毎年、「日本語・日本事情」のカリキュラムについて、如何にあるべきか、どのようにしたら良くなるかなど、なにがしの議論は行われるが、結局理想的な実践はなかなか出来そうにもないということが分かる。

かくして、今年度も迎え、そしてまた反省する時期になった。何故出来そうもないのかは、以前にもこの報告書で述べているので、詳しくは述べないが、今年度の広島大学在籍の留学生は、大ざっぱに言って、約60カ国から600人近くに上り、15学部局15研究科に分かれて在籍しており、「あいうえお」の初級から夏目漱石の上級の日本語の授業や宗教、法律、経済の分野に及ぶ日本事情のクラスまで、限られた兵力で作戦を組まなければならないという状況があるからである。

日本語の授業に関しては、後述の表にも見られるように、日本語能力のレベル別を中心に組み立てるようにしてある。内容は、重複しないように、各レベルでの横の連絡、上下のレベルの縦の連絡もできるだけ取るようにしているが、必ずしも留学生各々の必要に応じては限らない。

また、大学の留学生のための外国語教育としても補習としての日本語教育としても、その性格上上級レベルの日本語の授業が多くなるので、その分上級レベルの日本語教育では、より体系的な授業の構成が必要でありまた可能ともなる。スタッフとの関係で、できるだけ体系的なものを目指して、作文・表現法を中心としたもの、講読を中心としたもの、視聴覚教材を利用したものなど、内容的にも重複しないように心がけてはいるが、なかなかうまく実践できていないということは、以前にも述べた通りである。

留学生からの要望の声の中に、時々「会話の授業をして欲しい」という声があるが、会話を中心とした授業が組まれていないからであろう。この点に関しては、後に掲げる授業方針の中にも見られるように、授業の中で討論を目指そうとしたものもあるのであるが、それが十分に達成されていないということであろうか。こんな点も含めて、検討しなければならない点は沢山残されている。

日本事情の授業に関しても、大体日本語の上級の授業と同様なことが言えるようである。

内容的には、日本文学、日本の文芸、日本の経済情勢などを中心とした授業や視聴覚やコンピューターを利用した授業も取り入れている。授業の中ではディスカッションも取り入れようとしているものもあるが、これも、上述のように、うまく達成されていない場合もあるようである。

なぜであろうか。簡単に答えは出ないであろうが、実際の日本語・日本事情の授業の中でも「ああそうか」と反省させられる場合に、教師の日本の文化や状況を背景にした洒落や冗談にほとんど反応がない場合がある。それは、私たちにとっては常識的なことでも、留学生のほとんどが知らない場合が多いということに気が付かないでいたりするからである。

私がギリシアに留学していた時の経験を思い起こすと、ギリシアでも、友達との会話の中で冗談や笑話話が分からなかったり、テレビや劇場でのお笑いや洒落が分からなかったことがよくあった。一つには、聞き取りや理解力などの語学の能力がそこまで達していなかったから、もう一つは、本当に常識的なことも含めて、ギリシアの歴史的なことや現代ギリシアの諸事情に対する知識が乏しかったからである。このような状態では、なかなか会話も弾まないであろうし、ディスカッションも進まないであろう。

日本での留学生達も、これと同じような体験をしていることであろう。本国で相当日本に関する研究をしてきたと思われる留学生達でも、日本の事情、日本の文化、あるいは事象の背景を知らない場合が意外と多いようである。大いに体得し、活発なディスカッションが出来るようになって欲しいものである。

ところで、「日本事情」とは何か、またその教育は如何にあるべきか、ここ数年来論議され研究されている論点であるが、つい先日も、日本語教育学の大学院生と話し合った。ここでは、日本文化とはこんなものだとか、日本人とはこんなものだとか、その大勢で簡単に画一化したり限定できるものではないのではないかと、またそのように画一化した形で教育すべきではないのではないかなどの議論があった。確かに、日本の文化、伝統と言ったものは、あるようで、しかし、現代の日本の事情を眺めれば、複雑だと言うのである。

丁度、今年度の留学生センター主催の恒例のシンポジウムでは、「日本事情」教育のあり方やその専門性を探って、早稲田大学の細川英雄先生と国立国語研究所の佐々木倫子先生の講演を中心に、講演・討論会を開催する予定であり、その成果が大いに期待されるところである。

以下に、例年通り今年度の授業内容を記しておこう。

日本語・日本事情授業科目

授 業 科 目	開単 位 設数	学 期 別 週 授 業 時 数			備 考
		前 期	後 期	通 年	
◎ 日 本 語 初 級 I	1	2	2		広島大学外国人留 学生のための授業で ある。 日本語初級 I から 日本語初級 IV までは 前期又は後期で受講。 ただし、◎印の授業 は東千田, 西条の両地 区で開講。
◎ 日 本 語 初 級 II	1	2	2		
日 本 語 初 級 III	1	2	2		
日 本 語 初 級 IV	1	2	2		
◎ 日 本 語 中 級 I	2	2	2		
◎ 日 本 語 中 級 II	2	2	2		
日 本 語 中 級 III	2	2	2		
日 本 語 中 級 IV	2	2	2		
日 本 語 中 級 V	2	2	2		
日 本 語 中 級 VI	2	2	2		
◎ 日 本 語 上 級 I	2	2	2		
◎ 日 本 語 上 級 II	2	2	2		
◎ 日 本 語 上 級 III	2	2	2		
◎ 日 本 語 上 級 IV	2	2	2		
日 本 語 上 級 V	2	2	2		
日 本 語 上 級 VI	2	2	2		
◎ 日 本 事 情 I	2	2	2		
日 本 事 情 II	2	2	2		
日 本 事 情 III	2	2	2		
日 本 事 情 IV	2	2	2		
日 本 事 情 V	2	2	2		
日 本 事 情 VI	2	2	2		
日 本 文 化	2	2	2		
日 本 語 特 講	15		30		

日本語・日本事情

授 業 科 目	キャンパス	開 設 学 期	担 当 教 官
日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	西 条	前期・後期	深見兼孝・中川正弘・今田滋子
目標 かなおよび初歩的な文法，簡単な漢字の読み方を習得させる。			
内容 初歩的な文法事項の説明，文章音読練習(文法の理解を兼ねる)，口頭および筆記による文型練習。			
日本語初級Ⅰ・Ⅱ	東千田	前期・後期	内藤祐子(非)・渡部浩見(非)
目標 日本語を初めて学ぶ学生に，発音，文字，会話，基本文型を教える。			
内容 ひらがな，カタカナの発音，表記から始め，漢字，数量の表現，単純な構文，初歩的な会話を，指定の教科書に添って学習・練習し，同時に基本文法を学ぶ。受講生の状況に応じて必要な範囲で英語を媒介言語とする。			
日本語中級Ⅰ・Ⅱ	西 条	前期・後期	浮田三郎・下村真理子(非)
目標 初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに，語彙力を高め，豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。			
内容 短文を中心に構成され，会話を多く取り入れた教材を用い，場面に応じた適切な表現を学びながら，既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習，書く練習によって学習し，より日本語らしい表現の習得を目指す。			
日本語中級Ⅰ・Ⅱ	東千田	前期・後期	渡部浩見(非)・水野由美(非)
目標 ごく初歩の日本語を終えた学生の日本語の運用能力(聞く・話す・読む・書く)を高める。			
内容 初級で学んだ日本語の基礎を応用できるよう学生が日本語で質問，応用する機会を多くつくる。更に少し複雑な表現，文型になじむようパターン練習を繰り返し行い，基礎文法の仕上げをする。授業は教科書に添って行われるが，必要に応じて復習と応用練習をする。			
日本語中級Ⅲ・Ⅳ	西 条	前期・後期	大槻温子(非)・渡部浩見(非)
目標 中級Ⅰ・Ⅱの学習を終えた学生を対象とし，主に読解力を身につけることを目的とする。			
内容 教科書に添って，毎回ひとつのテーマを中心に読解，文章表現の練習をする。あわせて，漢字，文章の書き取り，短い作文の練習など，学生の日常生活に役立つ文章語の表現能力を養う。			
日本語中級Ⅴ・Ⅵ	西 条	前期・後期	田村泰男
目標 中級Ⅲ・Ⅳまでに学習してきた項目について確実に運用できるようにさせるとともに，日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけさせる。			
内容 読解用の文章を読むことによって，既習の文型・語彙・表現を整理し，併せて新しい文型・語彙・表現を学習する。その際，口頭練習で定着をはかるとともに，書き言葉に属する言い回し，或いは文型を「書く」作業によって練習し，文章レベルでの理解をはかる。これらの作業の後，教材の内容理解を確認するために練習問題を使って質疑応答を行う。			

日本語上級 I	西 条	前期・後期	深見兼孝
	東千田	前期・後期	
目標 時事日本語の聴解能力養成。あわせてそれに特有の語彙・表現を学習する。			
内容 A. 時事論評を聞き、その内容を理解する練習を行う。後にそれを文字化したものを読み、理解を補足する。さらに重要語句の使い方について練習する。 B. ニュースを聞き、i) その内容を理解する練習を行う（後にそれを文字化したものを読み、理解をチェックする）。ii) スクリプトの完成を行う。			
日本語上級 II	西 条	前期・後期	中川正弘
	東千田	前期・後期	
目標 日本語における「表現」のさまざまな側面を考察することで、内容や文法のレベルにとどまらず、表現行為や解釈行為まで含めた「ことば」とはどんなものであるかを理解する。			
内容 文章練習とその徹底的な分析を柱とする。ほぼ毎週短い作文を提出してもらい、これは当然添削し返却するが、添削では到底表すことができない日本語という言語の問題、誤用の分析、また言葉の「遊び」などに表れた日本文化、日本社会の考察を通して、外国人の日本語と日本人の日本語を隔ているものが何であるか検討してゆく。			
日本語上級 III	西 条	前期・後期	多和田眞一郎
目標 日本人のものの見方・考え方について理解を深めるとともに、それを題材とする討論により(日本語の) 口頭表現能力を高める。			
内容 「オモテとウラ」「ウチとソト」「ホンネとタテマエ」などの日本人のものの見方・考え方、行動様式に関して記述された文章を読む。また、「文化」をいかに捉え、理解すべきかについても考察を加える。			
日本語上級 IV	西 条	前期・後期	田村泰男
目標 慣用句を中心とした語彙や上級文法を習得させることによって日本語の読解力・文章表現力を養わせる。併せて言語表現の背後にある日本の文化や社会現象についての知識を身に付けさせる。			
内容 主として新聞の「経済」「政治」「社会」「文化」面から、日本の実社会をはんえいしている題材や身近な題材をとり、それに漢字の読み書き・慣用句の意味・文法などを問題として加えて編集したものをテキストとして用いる。授業では、まず「読める」ことを第一とし、次に個々の文章の意味が正確に理解できるように語彙の意味、表現を整理していく。これらの作業の後、題材についての説明を行い、クラスでその内容についての討論を行う。			
日本語上級 V	西 条	前期・後期	古浦敏生
目標 日本語の読解力を養成しつつ、伝統的な日本文化に触れてもらう。			
内容 ラフカディオ・ハーン「雪女」(大石真訳)などをテキストとし、日本の昔話の世界を紹介する。難語句の意味を分かりやすく説明し、言語学的な視点からの注も加え、精読していく。必要に応じて、英語原文も参照する。			

日本語上級Ⅲ	東千田	前期・後期	水野由美
目標 日本事情や文化に対する理解を深める。又、文章の論理的構成を把握し、要約発表する能力を高める。			
内容 日本事情や文化に関する新聞・雑誌などの記事を読み、構成を考え、要約する。それを、まず口頭で発表した後、要約文を書く。四コママンガによる作文をおこなうこともある。			
日本語上級Ⅵ	西条	前期・後期	大槻温子
目標 日本語の総合的能力を高める。			
内容 視聴覚教材（テレビの教養番組・ドラマやラジオ番組の音声テープとそのスクリプト）を用い、日本語の自然な会話に触れながら、スクリプトをもとに語彙・文法・構文・イントネーションなど、いろいろな角度から検討し、理解を深める。			
日本語上級Ⅶ	西条	後期	奥田邦男
目標 日常使用される自然な日本語の聴解能力を高め、さらに社会的コンテキストで適切に使用できる会話能力を高める。			
内容 テレビドラマのビデオ教材を中心に、日本語のあいさつ表現、慣用表現、省略表現などの特質を検討する。日本語の表現と各自の母語の表現との類似点・相違点について話しあう。			
日本事情Ⅰ	西条	前期・後期	浮田三郎
目標 日本の諺を学ぶことにより（時には世界各国の諺との対照比較して）、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などの理解を目指す。			
内容 日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などを学習する。各国の諺がもっているテーマやこそで使用されている素材を考える。諺の表現の特徴やおもしろさを考える。簡単なクイズ形式の設問を用いて考えてみる機会を与える。各々の諺について、留学生達の意見、対照比較できるように自国の諺や表現とその考え方を発表してもらい、意見の交換をする。			
日本事情Ⅰ	東千田	前期・後期	西川節行
目標 日本の社会・文化に対する理解を深める。			
内容 日本の社会・文化を紹介する文章を読み、さまざまな角度から日本を考察する。			
日本事情Ⅱ	西条	前期	水町伊佐男
目標 パーソナルコンピューターと日本語ワープロを使い、日本語の発音・文字・表記の問題を中心に日本語使用について学習する。			
内容 パソコンの基本操作を学習したあと、文字入力と漢字変換の作業をしながら、清音・濁音・半濁音・促音・撥音・拗音・直音・長音・音訓・四文字熟語・同訓異字・接頭字・カタカナ表記などの問題を考える。更に、各自の名刺作り、年賀状（暑中見舞い）の作成などにより日本文化を考える。また、授業の感想などをワープロで書いて提出してもらい、レポート作成の基礎を学習する。			

日本事情Ⅲ	西 条	後期	倉地暁美
目標 留学生の異文化理解に不可欠な総合的コミュニケーション能力の促進と視野の拡大を図る。			
内容 日本事情の諸問題について演習形式で授業を進める。又、受講者は担当者と共にジャーナルの交換を行い、日本語の書き言葉による one-to-one communication を体験する。			
日本事情Ⅳ	西 条	前期・後期	今石正人
目標 日本映画を通して、歴史・社会・文化・時代について理解を深める。			
内容 「羅生門」「生きる」「東京物語」「砂の女」「心中天網島」「寅次郎夕焼け小焼け」「家族ゲーム」を鑑賞し、質疑応答、ディスカッション形式で意見の発表・交換をする。			
日本事情Ⅴ	西 条	前期・後期	下村真理子
目標 現代日本の社会問題、時事問題を通して現代社会、日本人について考える。あわせて生きた日本語運用力を高める。			
内容 留学生からの希望テーマも考慮し、新聞、VTRなどを用いて授業を進める。 1. 新聞、雑誌を用いて、現代日本の諸問題を討議する。 2. ドラマを見て、日本人の生きがい、心について考え、作文を書く。			
日本語特別講義	西 条	後期	浮田・多和田・中川・深見・田村・大槻・渡部・下村・鴨瀬・縫部
目標 日本語の音声、文字(かな、漢字380字)に習熟し、日本語能力の基礎となる文法、語彙(1,400語)を体系的に習得する。			
内容 質・量ともに相応の教科書、補助教材を用い、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力をバランス良く伸ばすための集中的な学習を行う。			
日本文化	西 条	前期・後期	浮田・多和田・中川・深見・田村
目標 日本文化のさまざまな側面について、より深い知識と理解を得させる。			
内容 日本の社会問題、現代および伝統文化、日本人の行動様式や思考等に関する講義、文化施設への見学等。			

日本語日本文化研修プログラム

深見兼孝

広島大学では、昭和60年度より日本語日本文化研修留学生を受け入れているが、昭和62年度より特別経費の交付を受け、「日本語日本文化研修プログラム」を開始し、現在に至っている。このプログラムは、日本語研修（「日本語日本事情」で開設されているクラスから選択）、指導教官のもとでの課題研究、日本文化特別講義・見学プログラムからなる。平成5年度後期及び平成6年度前期の日本語日本文化特別講義・見学プログラムの概要は、次の通りである。

なお、研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出することになっている。留学生センターはそれらのレポートをまとめレポート集として刊行する。

平成5年度後期

- 10月29日（金）－30日（土） 見学 広島市内
- 11月12日（金） 講義 現代日本の女性問題（IWAD 平田富美子）
- 11月19日（金）－20日（土） 見学 岩国市・宮島
- 11月26日（金） 講義見学 西条の歴史（郷土史家 飯田米秋）
- 12月3日（金） 映画上映
- 12月7日（火） 講義 日本の方言Ⅰ－概説－（広島文化女子短期大学 高永 茂）
- 12月17日（金） 講義 日本の方言Ⅱ－沖縄方言－（教育学部 町 博光）
- 1月14日（金） 講義 日本文学（教育学部 相原和邦）
- 1月21日（金） 講義 日本の建築（工学部 鈴木 充）
- 1月28日（金） 見学 マツダ
- 2月4日（金） 見学 筆作り工場
- 2月18日（金） 映画上映
- 2月24日（木）－26日（土） スキー実習
- 3月7日（月）－9日（水） 見学実習 日本の陶芸（陶芸家 川原浩二）

平成6年度前期

- 5月6日（金） 見学 酒蔵
- 5月20日（金） 見学 そごう坂配送センター

6月5日(日) 見学 花田植え
7月1日(金) 見学 尾道市
7月16日(土)–17日(日) 似島キャンプ
9月9日(金) 終了式・懇談会

前回に引き続き、実習を取り入れるなどして、前半の比重を重くした。また、映画上映も試みに行った。次回もこの路線を踏襲するつもりである。

日本語研修コース

多和田 眞一郎

〔修了者〕
第十八期（1994年4月～94年9月）（28人）

氏 名	クラスでの呼 び 名	国	生年	専 攻	専門教育
Treyes, Rodolfo Serrano	ト ト	フィリピン	1960	教 育 学	広島大学
Lopez, Tinajero Maria Natividad	ナ テ イ	メ キ シ コ	1960	教 育 学	〃
Fujita, Milena Mie	ミ エ	ブラジル	1967	数 学 教 育	〃
Batalla, Eric Vincent Celestial	エ リ ッ ク	フィリピン	1962	経 営 学	〃
Mananjarasoa, Emilienne	エミリエン	マダガスカル	1964	薬 学	〃
Oliveira Junior, Joviniano Martins De	オリベイラ	ブラジル	1967	歯 学	〃
Cho Oo	チョーウー	ミャンマー	1959	建 築 工 学	〃
Mohamad Taha, Mohd Pauze	パ ウ ジ	マレーシア	1960	環 境 工 学	〃
Subyatmoko, Rusky Marsantyo	ル ス キ	インドネシア	1965	土 木 学	〃
Prabowo	プ ラ ボ ウ	インドネシア	1965	エネルギーシステム	〃
Sumarno	ス マ ル ノ	インドネシア	1964	化 学 工 学	〃
Bakhshi, Ali	バキシアリ	イ ラ ン	1964	海 洋 土 木	〃
Noguera Rodriguez, Juan	フ ア ン	ス ペ イ ン	1968	通 信 工 学	〃
Poupyrev, Ivan Evgenjevitch	イ バ ン	ロシア(CIS)	1969	コンピューター	〃
Rahman, Kd. Zulfikar	ズルフィカル	バングラデシュ	1964	農業改良普及	〃
Mahmoud, Maged Salah	マフムド	エジプト	1960	医 学	〃
Jamiyan, Ganbat	ガンバット	モンゴル	1961	経 済 学	山口大学
Kassa, Fisiha Belay	カ ッ サ	エチオピア	1959	経 営 学	〃
Boygoda, Ekanayake Mufiyanselage Prasanna Dhanaya	ボヤゴダ	スリランカ	1964	制御システム工学	〃
Jamalludin, Damanhuri	ダマンフリ	マレーシア	1961	地 質 工 学	〃
Portugal, Arlet Millanes	アルレット	フィリピン	1971	電 子 計 算 機	〃
Franco De Sa, Marcelo Guedes	フランコ	ブラジル	1967	機 械 工 学	〃
Bromley-Barratt, John Francis	ジ ョ ン	イギリス	1971	材 料 工 学	〃
Tran, Dang Thai	ダ ン	ベトナム	1959	土木海洋工学	愛媛大学
Boateng, Kwame Osei	ク ア メ	ガ ー ナ	1962	情 報 工 学	〃
Mirianashvili, Maria	マ リ ア	グルジア	1969	電 気 電 子 工 学	〃
Khan, Farmanullah	ハ ー ン	パキスタン	1959	生 物 資 源 学	〃
Erizal	エリザル	インドネシア	1965	生 物 資 源 学	〃

第十九期（1994年10月～95年3月）（6人）

氏名	クラスでの呼び名	国	生年	専攻	専門教育
Iga, Fukiko Faureen	フキコ	カナダ	1967	言語学	広島大学
Bordone Renato	レナート	イタリア	1963	材料工学	〃
Khairurrijal	リジャル	インドネシア	1965	材料工学	〃
Muleya, Janet Siphon	ジャネット	ザンビア	1963	獣医学	山口大学
Imaz Urrengoechea, Ignacio	イグナチオ	スペイン	1969	海洋生物育成学	高知大学
Yang, Keun Young (梁根榮)	ヤン	大韓民国	1960	体育生理学	〃

日本語研修コース関係講師一覧

第十八期（1994年4月～94年9月）

専任	多和田 眞一郎	浮田 三郎	中川 正弘	深見 兼孝
	田村 泰男	橋本 敬司		
非常勤	今石 正人	鴨瀬 昌幸	豊田 尚子	松尾 馨
	渡辺 久美	西川 節行	武村 重和	河野 和清
	山口 武志	山崎 和男	河野 道生	吉野 宏
	北村 光孝	福島 博	吉田 将之	

日本語研修コース関係講師一覧

第十九期（1994年10月～95年3月）

専任	多和田 眞一郎	深見 兼孝	田村 泰男	橋本 敬司
非常勤	今石 正人	鴨瀬 昌幸	豊田 尚子	松尾 馨
	渡辺 久美	北村 光孝	西川 節行	福島 博
	細田 和雄	吉田 将之		

日本語研修コース (第十七期) 1993年度 (十月～三月) 成果報告

期 日	授 業 内 容 等	特 別 研 究 指 導 等	備 考
0 10/12 (火)	開講式 (11:00) オリエンテーション(11:30-12:00)		
1 10/13～10/15	面接、発音、ひらがな、 初歩文型	10/15 健康診断 (午前)	
2 10/18～10/22			
3 10/25～10/29		10/30, 31 広島市	10/29 代休 (宿泊)アステールプラザ
4 11/1～11/5			11/3 (水) 公休日 11/5 (金) 創立記念日
5 11/8～11/12			
6 11/15～11/19	11/15 (月) 試験①	11/19, 20 岩国・宮島	
7 11/22～11/26			11/23 (火) 公休日
8 11/29～12/3			12/2 (木) 「専門用語解説」開始
9 12/6～12/10	12/9 (金) 試験②		
10 12/13～12/17			
11 12/20～12/22			
※ 12/24～1/9	冬季休業 (冬休み)		
12 1/10～1/14			
13 1/17～1/21			
14 1/24～1/28	1/26 (水) 試験③		
15 1/31～2/4			
16 2/7～2/11			2/11 (金) 公休日
17 2/14～2/18		2/18 マツダ	
18 2/21～2/25	2/22 (火) 試験④ 特別講義		
19 2/28	特別講義		
00 3/1 (火)	成果発表、修了式		

日本語研修コース (第十八期) 1994年度 (四月～九月) 成果報告

期 日	授 業 内 容 等	特 別 研 究 指 導 等	備 考
0 4/13 (水)	開講式 (11:00) オリエンテーション(11:30-12:00)		(ホストファミリーせつめい)(13:00) 授業開始 (13:30～)
1 4/14～4/15	面接、発音、ひらがな、 初歩文型		
2 4/18～4/22			
3 4/25～4/29		4/29. 30 広島市	4/29 公休日
4 5/2～5/6			5/3. 4. 5 公休日
5 5/9～5/13		5/10 健康診断 (午後)	
6 5/16～5/20	5/20 (金) 試験①		
7 5/23～5/27			
8 5/30～6/3		6/3. 4 岩国・宮島	6/2 「専門用語解説」開始
9 6/6～6/10			
10 6/13～6/17			
11 6/20～6/24	6/20 (月) 試験②	6/24 マツダ	
12 6/27～7/1			
13 7/4～7/8			
☐ 7/11～8～31	夏季休業 (夏休み) 7/16. 17 似島合宿 (ビッグジャンボリー)		
14 9/1～9/2	9/2 (金) 試験③		
15 9/5～9/9			
16 9/12～9/16			9/15 公休日
17 9/19～9/23	9/21 (水) 試験④ 特別講義		9/23 公休日
18 9/26～9/27	特別講義		
00 9/28	成果発表、修了式		

日本語研修コース (第十九期) 1994年度 (十月～三月) 成果報告

期 日	授 業 内 容 等	特 別 研 究 指 導 等	備 考
0 10/19 (水)	開講式 (11:00) オリエンテーション(11:30-12:00)	10/19 健康診断 (15:00～)	
1 10/19～10/21	面接、発音、ひらがな、 初歩文型		
2 10/24～10/28			
3 10/31～11/4		11/4, 5 広島市	11/3 (木) 公休日 11/5 (土) 創立記念日
4 11/7～11/11			
5 11/14～11/18			
6 11/21～11/25	11/21 (月) 試験① (10:00～12:20)	11/25, 26 岩国・宮島	11/23 (水) 公休日
7 11/28～12/2			
8 12/5～12/9			12/8 (木) 「専門用語解説」開始
9 12/12～12/16	12/14 (水) 試験② (10:00～14:30)		
10 12/19～12/23			12/23 (金) 公休日
11 12/26～12/26			
- 12/27～1～4	冬季休業 (冬休み)		
12 1/5～1/6			
13 1/9～1/13			
14 1/16～1/20	1/19 (木) 試験③ (10:00～14:30)	1/20 マツダ	1/16 (月) 公休日
15 1/23～1/27			
16 1/30～2/3			
17 2/6～2/10			2/11 (土) 公休日
18 2/13～2/17	2/17 (金) 試験④ (10:00～12:20)		
19 2/20～2/24	特別講義		
20 2/27～2/28	特別講義		
00 3/1 (水)	成果発表、修了式		

教員研修留学生コース（1993年10月～1994年9月）

研修プログラム

I. 研修プログラム概要

A 教育学

- 1) 教育学、心理学、教科教育学に関する英語による講義演習。(一年)
- 2) 授業参観、特別活動見学をはじめ、その他各種の教育施設、社会教育施設の見学。
(一年)
- 3) 課題研究－指導教官の下で、各自の研修テーマを研修。(一年半)

B 日本文化、日本事情 (一年)

- 1) 日本文化、社会に関する多方面からの英語による講義、実習
- 2) 文化活動に参加、各種文化施設の見学。

C 日本語教育

- 1) 日本語特講（初級～中級レベル）。(6ヵ月)
- 2) 上記以外の日本語・日本事情のクラス。(学生の能力、必要に応じて)

D 研修論文およびアブストラクトの作成

II. 研修プログラム内容

A 教育学

1) 講義・演習

1993/11/18 (木)	「日本の初等・中等教育」教育学部助教授 安原 義仁
1993/12/9 (木)	「各国の教育事情」教育学部助教授 二宮 皓
1994/2/8 (火)	「日本の教員養成」教育学部教授 吉田 正晴
1994/2/17 (木)	「日本の高等教育」留学生センター助教授 田畑 佳則

2) 学校・教育施設見学

1993/11/15 (月)	広島大学附属幼稚園
1993/11/26 (金)	広島大学附属小学校・広島市立中央図書館
1993/12/3 (金)	広島大学附属中・高等学校
1994/12/10 (金)	広島市教育センター

1994/2/4 (金) 尾道商業高等学校
 1994/2/7 (月) 東広島市中央公民館
 1994/5/13 (金) 広島市立広島養護学校
 1994/5/26 (木) 呉工業高等専門学校
 1994/7/1 (金) 広島朝鮮中・高級学校
 1994/7/8 (金) 広島YMCA学園

B 日本文化・日本事情

1) 講義・演習

今期は開設せず。

2) 見学

1993/11/19 (金) - 11/20 (土) 岩国・宮島見学旅行
 1994/2/4 (金) - 2/5 (土) 尾道市
 1994/2/18 (金) マツダ
 1994/3/2 (水) - 3/3 (木) 福山旅行

C 日本語教育

1) 日本語特講 (1993年10月～1994年2月。週平均30時間)

	9:45-10:30	10:50-12:20	13:10-14:40	15:00-16:30
月	田村	深見	中川 (CAI)	浮田
火	多和田	渡部	鴨瀬 (ビデオ)	渡部
水	多和田	多和田	下村 (ビデオ)	大槻
木	深見	大槻	鴨瀬 (CAI)	縫部
金	・・・	浮田	浮田・多和田・中川・深見・田村	

日本語講師

多和田 真一郎 広島大学留学生センター教授
 浮田 三郎 広島大学留学生センター教授
 中川 正弘 広島大学留学生センター講師
 深見 兼孝 広島大学留学生センター講師
 田村 泰男 広島大学留学生センター講師
 縫部 義憲 広島大学教育学部助教授

鴨 瀬 昌 幸	広島大学留学生センター非常勤講師
大 槻 温 子	広島大学教育学部非常勤講師
下 村 真理子	広島大学教育学部非常勤講師
渡 部 浩 見	広島大学教育学部非常勤講師

2) 上記以外の日本語・日本事情のクラス (1994年4月～1995年3月。能力と必要に応じて選択)

D その他

1993/10/30 (土) - 10/31 (日) グローバル・フレンドシップ・セミナー
(広島市)

1994/2/22 (火) - 2/24 (木) 研修旅行 (京都・奈良)

1994/7/16 (土) - 7/17 (日) 青少年との国際交流 “BIG JAMBOREE”
(広島市似島臨界少年自然の家)